



経済学部

<https://www.econ.keio.ac.jp>



経済学部公式ウェブサイト
www.econ.keio.ac.jp/

入試案内 (サイトアクセス用 QRコード →)

慶應義塾大学入学センター TEL. 03-5427-1566

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/>



交通アクセス (サイトアクセス用 QRコード →)

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/>

日吉キャンパス

〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

日吉駅(東急東横線、東急目黒線、東急新横浜線／横浜市営地下鉄グリーンライン)
徒歩1分

※東急東横線の特急は日吉駅に停車しません。

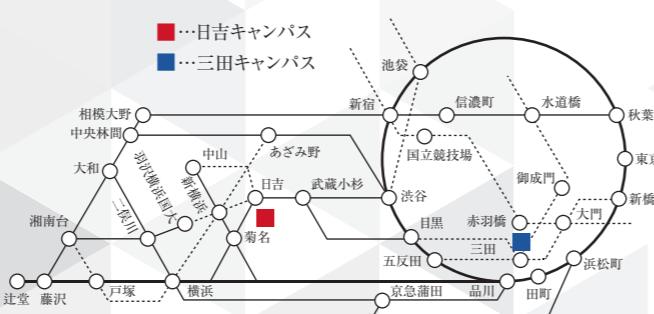
三田キャンパス

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

田町駅(JR山手線／JR京浜東北線)
徒歩8分

三田駅(都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線)
徒歩7分

赤羽橋駅(都営地下鉄大江戸線)
徒歩8分



お問い合わせ先 (サイトアクセス用 QRコード →)

<https://www.keio.ac.jp/ja/contact-us/>

TEL. 03-5427-1517(総務部)

電話受付時間 8:30～17:00(月～金)(原則)



Keio University



慶應義塾大学 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45



www.keio.ac.jp/

2024.06

慶應義塾大学

Faculty of Economics, Keio University

経済学部

学部案内

2025



X Keio University

あなたの未来を 拓きます

異なる入口

入試タイプ A (数学受験)

- ・英語
- ・数学
- ・小論文

日吉キャンパス

経済学的
思考力を養う

共通の出口

三田キャンパス

学びを深化させる
経済5領域

入試タイプ B (地理歴史受験)

- ・英語
- ・地理歴史
- ・小論文

教養

語学

歴史

数学

経済基礎

経済理論

経済史

経済政策

世界経済

環境・社会

異なる「入口」から経済学的思考力を養い、
経済学の専門分野を学ぶ「出口」は共通です

経済学部の一般選抜には、入試タイプA(数学利用)と入試タイプB(世界史または日本史利用)の二つの「入口」が用意されており、入試方式によって入学後の履修タイプが異なります。まず、日吉キャンパスでの第1・2学年では、より得意な分野に重点を置いて学習を始め、深い教養と経済学的思考の総合能力を養います。そして、三田キャンパスでの第3・4学年では、考える力を鍛えるための少人数教育が充実しており、かつ、幅広い専門領域から各自の関心に合わせた多様な学習が可能です。

未来を拓く

Future

「慶應経済人」と称された卒業生たちは、明治以降日本経済の発展に指導的役割を果たしてきました。今日の日本の経済人に期待されているのは、国際的に通用する学識とともに、地球規模で生じている課題に対してリーダーシップを発揮できる能力です。経済学部は、このような世界を先導する新たな経済人の育成を目指しています。



広告
マーケティング



商社



製造



情報通信



金融



保険

官庁



政府系
金融機関



公認会計士



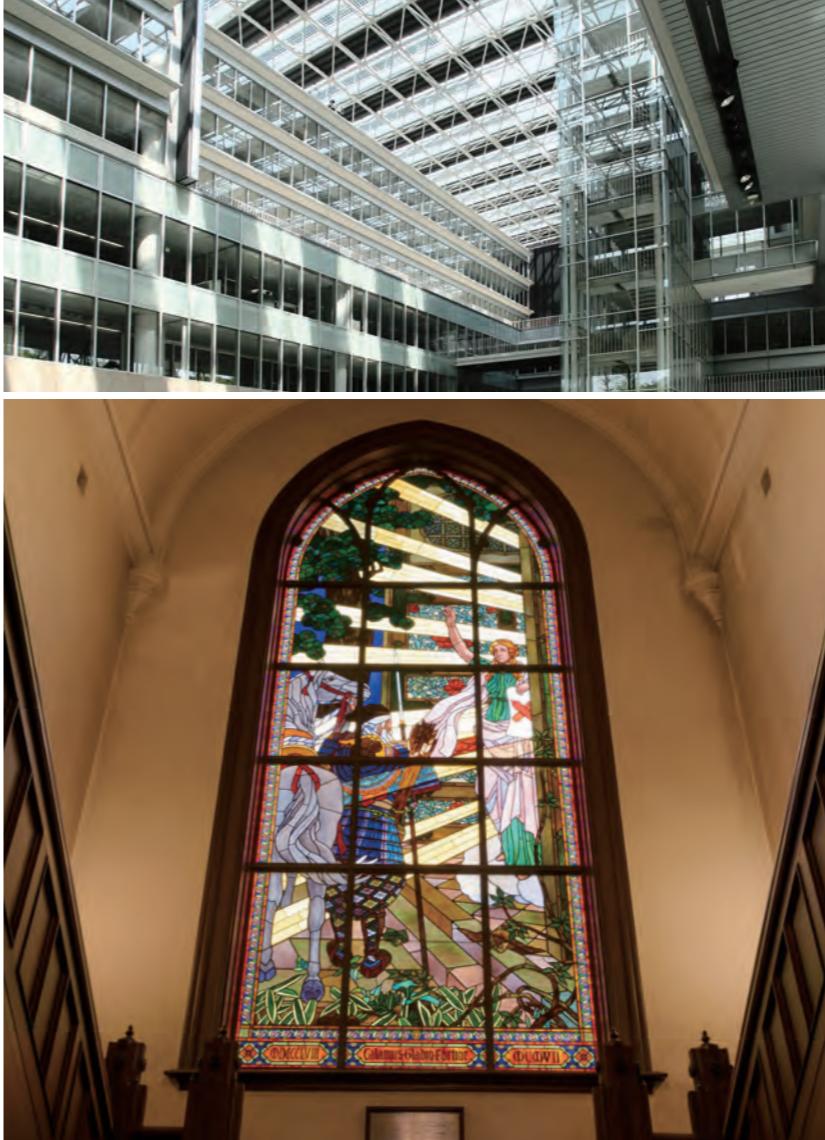
進学



証券

日本における 経済学の魁

日本の経済学は、慶應義塾から始まりました。前身である慶應義塾大学部理財科が明治23(1890)年に創設されて以来、本学部は日本で最初の経済学部として理論と実証の両面で日本の経済学研究をリードしてきました。さらに慶應義塾建学以来の「半学半教」の精神にのっとり、本学部は自由闊達な校風の中で先進的な経済学教育を行い、数多くの優秀な「慶應経済人」と称される卒業生を世に送り出してきました。現在、本学部の卒業生は実業界を始めとして学界、政界、官界など様々な分野で活躍しています。



Admission Policy

入学者の受入れに関する方針

社会に積極的に関与する強い意志を持ち、自らの智力によって変化する社会を把握しようという気概をもった学生を求めていきます。また、学問的基礎に基づいて厳密に考える能力にすぐれると同時に、バランス感覚に富み、多様なものの見方を尊重できる人材の育成を目指しています。このような知性により社会の指導的役割を担える潜在力を備えた多彩な学生を受け入れたいと考えます。

History 慶應義塾大学 経済学部の歩み

1858 安政5年に創立

1890 理財科の設置

1920 経済学部の発足

1990 経済学部発足
100周年

2008 義塾創立150年

2016 PEARLの設立

開塾 福澤諭吉数え年25歳



経済学部の前身の理財科が発足



理財科から経済学部へ



国際シンポジウムを開催



創立150年記念式典を開催



9月にPEARL第一期生が入学



慶應で、世界で経済学を学ぶ

多様な履修が可能な経済学部のカリキュラム

経済学部のカリキュラムは、学生一人ひとりの興味や目的に合わせて多様な履修の仕方ができるよう考えられています。たとえば、日吉キャンパスでの「英語セミナー」は、各教員が選んだテーマについて英語で学ぶ科目です。中級から特別上級まで、英語習得状況に合わせた履修が可能です。

4月入学

入試タイプ A (数学受験)

- ・英語
- ・数学
- ・小論文

入試タイプ B (地理歴史受験)

- ・英語
- ・地理歴史
- ・小論文

1年生

2年生

日吉キャンパス

2つの履修タイプで学びをスタート：教養を深める

第1・2学年では、教養科目のほかに、入試方式に応じて履修タイプA(経済理論・数学先習型)と履修タイプB(経済実態・歴史先習型)に分かれ経済の基礎を学びます。履修タイプAの学生は数学やミクロ経済学、履修タイプBの学生は経済史に重点を置いて履修します。

履修タイプBでも理系科目を学べます

地理歴史受験の場合は、履修タイプBを選択することになりますが、その場合でも必要に応じて数学の基礎知識を身につけられるように、選択科目を用意しています。

また、希望する学生は、履修タイプA・Bを問わず、東京工業大学の科目の履修も可能です。

学士課程

PEARL (Programme in Economics for Alliances, Research and Leadership)

4年間英語で経済学を学ぶ

9月入学のプログラム

確かな経済学の知識を基礎に世界を舞台に活躍する、先導者の輩出を目的として設立されました。PEARL入学者は、筆記試験や面接を行わない、経済学部独自の入試によって選抜されます。



Global Alliance

●ダブルディグリー・プログラム

在学中に提携校に一定期間留学し、両校の修了要件を満たすことにより、卒業時に慶應義塾と提携校の2つの学位(学士)を取得します。現在の提携校は、フランスのパリ政治学院とイタリアのボッコーニ大学です。

●学部・修士5年プログラム

3年間慶應に在籍し、その後の2年間を海外の提携校に在籍します。所定の要件を修めた経済学部生が慶應義塾大学経済学士号と海外提携校の修士号を取得できます。HEC経営大学院(PEARL生のみ対象)の他、パリ政治学院、ボッコーニ大学、ケルン大学、ブランダイス大学、スティーヴンス工科大学と提携しています。

●交換留学(経済学部独自枠)

大学全体の募集枠とは別に、独自の募集枠を設けて世界の諸大学へ交換留学生を派遣しています。現在、アメリカやヨーロッパ、アジアの18の国や地域の大学と協定を結んでいます。(2024年4月現在)

2023年度より 3.5年早期卒業制度を導入

2023年度以降の入学者を対象に、3.5年(7学期)在学すれば卒業できる早期卒業制度を導入しました。4月入学者(タイプAB学生)の海外大学院進学支援、9月入学者(PEARL学生)の日本での就職支援、経済学研究科と連携した3.5年+1.5年の内部学士・修士5年プログラムの実現を目的としています。



三田キャンパスでは、専門科目担当の教員がさまざまな専門分野に関して講義を行っています。さらに、研究会だけでなく、演習、研究プロジェクト、PCP、専門外国書講読といった様々な形態の少人数クラスが用意されています。また、経済学部独自の交換留学協定や海外教育機関とのダブルディグリー・プログラム、学部・修士5年プログラムがあり、留学先や期間、手段も多種多様です。

3年生

4年生

三田キャンパス

2つの履修タイプは三田で合流：専門科目を学ぶ

第3・4学年では、二つの異なる入口から入った学びは一つに合流し、同一のカリキュラムのなかで学びます。

経済学部の主な専門領域

- 経済理論
- 歴史
- 経済政策
- 世界経済
- 環境・社会

多岐にわたる専門領域から各自の関心や目的に応じて学びを組み立てます。

充実した専門教育担当教員

毎年、上記の専門領域で70前後の研究会(ゼミナール)が開講されています。

学士課程卒業

大学院 修士課程



修士課程修了
学士・修士を5年間で
修了することも可能。

研究会(ゼミナール)

将来の財産を築く2年間

専門教育科目担当の各教員が、それぞれの専門分野について指導する少人数のクラスです。原則として2年間にわたり同じ教員の下で学び、卒業論文を作成します。



PCP (Professional Career Programme)

すべて英語で行う実践的な経済学教育

選抜された3・4年生を対象に、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経済学教育を、英語の少人数クラスで行うプログラムです。PCPの履修科目は全て卒業単位として計算され、プログラム内の科目全てに合格した学生には、PCP修了証が授与されます。また、海外からの留学生も多数一緒に学ぶため、留学生との交流を通じて考え方の違いを実感できることも魅力です。



2022年度創設

DEEP (Data-driven Economics and Econometrics Programme)

データサイエンスの基礎と経済分析への応用を体系的に学びます。必要単位数を取得し、成果物を提出した学生に修了証が授与されます。

2022年度創設

FACTS (Fieldwork for Active Comprehension of Targeted Subjects)

フィールドワークをベースに仮説的論理構築能力を養成するプログラムです。必要単位数を取得し、成果物を提出した学生に修了証が授与されます。

研究プロジェクト

経済学にとらわれないテーマ設定が可能

学生が自ら選んだテーマについて、そのテーマに関連した専門を持つ経済学部の専任教員の指導の下、1年間で論文を完成させるコースです。徹底した少人数制がとられ、経済学にとらわれない幅広いテーマを設定することができます。社会科学のみならず、自然科学・人文科学といったさまざまな学術分野の研究が可能です。



Message
研究会(ゼミ)

01

研究会を通じて、多様な考え方を吸収し成長できました

私が所属する玉田康成研究会では、ミクロ経済学視点で現実経済の研究を行います。3年時には、少人数のパートに分かれて興味のあるテーマの研究と論文の執筆を行います。私のパートでは「カーシェアリングの普及戦略」をテーマに研究を行いました。日吉で学習したミクロ経済学の知識を使って現実の経済を考えることで、より体系的に理解することができました。優秀な同期とともに論文の執筆を行う中で、様々なアイデアに触れることができ、1人では得られない学びが多くありました。また、研究が行き詰った際には教授の丁寧なアドバイスにより、納得できる論文を完成させることができました。



経済学部 4年
(愛知県・私立愛知淑徳高等学校 出身)

Message
PCP

02

世界的に活躍するキャリアを築く第一歩としてのプログラム

PCP(プロフェッショナル・キャリア・プログラム)では、経済学の授業を英語で履修するだけでなく、自分が興味のあるテーマで実証分析と論文執筆を行います。私は3年次の秋学期から交換留学の内定をいたいでいたので、留学前から留学生や帰国生と共に学ぶことができるこのプログラムに惹かれ、受講を決意しました。共同研究では、留学生と帰国生とグループを組むことで、常に自分の意見を求められながら、妥協点を見つける力や、自分の意見を通す力を磨くことができました。個別研究では、グループ研究で培った知見をもとに、教授からサポートしていただきながら、自分自身で英語論文を執筆する経験をすることができました。多様性のあるメンバーと共に学べることがPCPの一番の魅力であると考えています。



2023年度経済学部卒業生
(岡山県・県立倉敷古城池高等学校 出身)

Message
研究プロジェクト

03

学術的に関心のあるテーマを掘り下げる特別な機会

研究プロジェクトは、1年間を通して興味のある分野で広範な研究に取り組める特別な機会です。研究テーマは経済学に限らず、多岐にわたります。私の場合、特定の出来事がグローバルな需給に及ぼす複雑な因果関係、特に波及効果に強い関心を抱くようになりました。2019年の日本の対韓輸出規制措置の影響を調査することを選びました。研究に没頭する中で、自分の研究テーマについて深く議論する機会に恵まれました。さらに、私が選択した分野の専門家である指導教授と緊密に協力することで、個人的なフィードバックを受けることができました。このように、研究プロジェクトは、課題に学問的に挑戦し、自分の関心分野をより深く探求したい学生にとって、貴重な機会を提供してくれます。



経済学部4年
(Korea International School出身)

Message
Double Degree

「先導者」に欠かせない
知性を磨く

「全社会の先導者たれ」—福澤先生が残した義塾の目的を胸に挑戦を決意しました。アジアにフォーカスしたキャンパスだからこそ得られる「外から見た日本」の視点、幅広い社会学を学ぶことで身に付くGlobal issuesに多面的に取り組む力、そしてフランス最高峰のGrande écoleの学生達と切磋琢磨し合う経験。どれも「先導者」に欠かせない要素ではないでしょうか。相応の意欲がある学生には、実り多き4年間の舞台が用意されていることを約束できます。



2023年度派遣
鈴木 貫正

Message
Double Degree

海外経験がなかった人にこそ
挑戦してほしいプログラム

海外経験がなかったからこそ感じられたものが多くあります。特に、友人関係から学業に至る、あらゆる場面で自分が弱い立場に置かれるという経験を得たことが印象的でした。社会の中で活躍できるか否かは、個人の努力や能力の範疇を超えた背景的条件に強く依存することを、身をもって感じました。同時に、創意工夫することで、言語面や文化面での壁を乗り越えられる可能性を感じ、自信も深めました。このプログラムが初の海外挑戦となる人こそ頑張ってください。



2023年度派遣
竹内 佐介

Message
Double Degree

「もう一つの家族」とともに
成長できる機会

多様な環境で育ち、多様な意見を持っている仲間と切磋琢磨できる環境で学ぶことができるプログラムです。親元を離れた異国の地での暮らしには大変なこともあります。お互い勉強面から生活面までサポートし合ったりして、世界中に家族がいるような充実感を覚えています。また、自他の意見を通じて一つのトピックを見つめる授業方式も楽しいです。学力だけでなく、人間としても成長できる素晴らしい機会ですので、自信をもって推薦できます。



2023年度派遣
長神 和花

卒業後の進路

本学部の卒業生の就職率は高く、2023年度卒業生のうち約30%が学術研究、専門・技術サービス業、

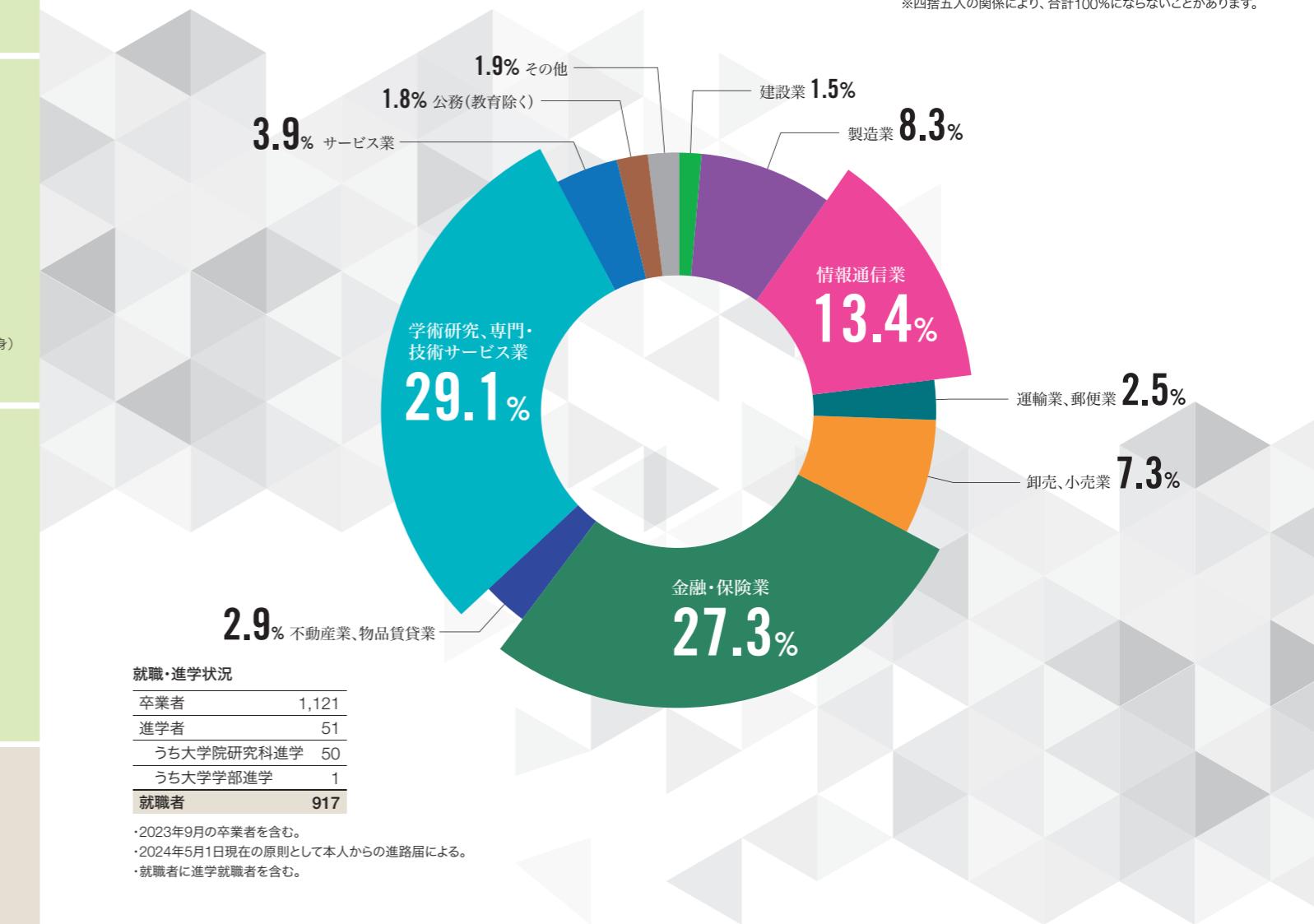
次いで、金融・保険業、情報通信業などに就職しています。

一方、在学中から公認会計士や国家公務員総合職試験の準備をする学生もいます。

また、大学院経済学研究科への進学も開かれており、他大学院研究科も含め50名が修士課程へ進学しました。

■ 業種別進路

※四捨五入の関係により、合計100%にならないことがあります。



■ 就職先上位ランキング ※5名以上就職先

1	ペイケラント・コンサルティング	36	12	PwCコンサルティング合同会社	12	6	住友商事	6
2	アクセンチュア	29	12	有限責任あづさ監査法人	12	6	農林中央金庫	6
3	デロイトトーマツ	27	12	みずほ証券	12	5	ADKホールディングス	5
4	三井住友銀行	20	12	明治安田生命保険相互会社	12	5	NTTデータグループ	5
5	三井住友信託銀行	18	11	EY新日本有限責任監査法人	11	5	NTTドコモ	5
6	みずほ銀行	17	11	アビームコンサルティング	11	5	兼松	5
7	EYストラテジー・アンド・コンサルティング	16	11	東京海上日動火災保険	11	5	商工組合中央金庫	5
7	大和証券	16	11	日本アイ・ビー・エム	11	5	商船三井	5
9	デロイトトーマツ ファイナンシャル アドバイザリー合同会社	15	11	三菱UFJ信託銀行	11	5	シンプレクス・ホールディングス	5
9	野村證券	15	9	電通	9	5	日本電気	5
11	三菱UFJ銀行	14	9	有限責任監査法人トーマツ	9	5	博報堂	5
21	リクルート	7	8	伊藤忠商事	8	5	パナソニックホールディングス	5
23	野村総合研究所	8	8	野村證券	8	5	ブルームバーグ・エル・ピー	5
25	丸紅	7	5	リクルート	7	5	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	5

2024年5月1日現在



「独立自尊」の精神で 課題解決に挑む

経済学部長 駒形 哲哉

慶應義塾大学経済学部は、経済学を専攻する学部としては日本でも最も長い歴史を有しています。1890年に大学部理財科として開設されて以来、日本の経済学研究をリードしてきました。そして学ぶ者と教える者との分を定めず、互いに学び合い教え合う「半学半教」の精神にもとづきつつ、多くの優れた卒業生を、ビジネスの世界をはじめ、学界、政界、官界など多様な分野に送り出してきました。

慶應義塾大学経済学部は、内外の変化に対応しながら、社会的要請にこたえ、経済社会を先導する人材を育成するための教育プログラムの絶えざる進化に取り組んでいます。

21世紀に入ってからは、学部独自の留学制度の拡充、海外の大学とのダブルディグリーおよび学部・修士一貫教育のプログラム、そして英語で全授業を行うプログラムの創設など、グローバル化への対応に注力してきました。また、規模の大きな学部でありながら、「半学半教」を体現する少人数教育にも力を入れています。さらに2022年度からは、データサイエンスやフィールドリサーチに関する履修プログラムを開始しています。加えて、2023年度入学者より、海外の大学院への進学を容易にすることや、大学院経済学研究科との連携により学士と修士の学位を5年で取得できるようにすることを目的に、早期卒業制度を導入しています。

ただし、ここで強調しておきたいのは、慶應義塾大学経済学部の本当の競争力が、プログラムそれ自体というよりも、優れた教員を擁していることにある点です。これは企業の競争力の源が結局は人にあることと同じです。本学部のスタッフは、経済学の先端的な研究で学界をリードし、実社会にも有益な貢献をなしています。そして語学や広く教養に関わる多様な分野における大学教育のエキスペートが、皆さんの成長を支えます。

近年、私たちは感染症の流行による混乱、社会的な分断や対立という問題に直面してきました。また、多様性を重視する社会への移行期にあって、これまでにない問題の解決に取り組むことが求められています。

そうした時、私たちは何を指針とすればよいのでしょうか？ 慶應義塾の基本精神である「独立自尊」という考え方こそ、その指針となると私は考えます。「独立自尊」とは「自他の尊厳を守り、何事も自分の判断・責任のもとに行うこと」を意味します。これまで経験したことのない、解のない課題に取り組み、望ましい社会を築くための指針が、まさにここにあるのです。

経済社会が大きく変化するなかで、皆さんには未知への挑戦をしなければなりません。しかし、皆さんのが大学でやるべきことは不变です。

中国の古典『菜根譚』に次のような記述があります。「磨礪は常に百煉の金の如くすべし。急就すれば遂養に非ず」。これは、人の修養は磨き上げるようにしなければならず、速成では身につかないという意味です。皆さんが社会に出て各方面で活躍するためには、学問への取り組みを核に、自らを徹底的に鍛える必要があります。そうした機会を私たちには提供し、皆さんの期待に応えていきます。



教員一覧

日吉キャンパスには、教養教育を担当する理系・文系のさまざまな専門分野の教員が所属しています。
三田キャンパスには、専門教育を担当する多彩な専門領域の教員が所属しています。

2024年4月1日現在

専攻	職位	氏名	専門領域
経済理論	教授	坂井 豊貴	メカニズム・マーケットデザイン、社会的選択理論
	藤原 一平	マクロ経済学、国際金融論	
	廣瀬 康生	マクロ経済学、金融政策	
	栗野 盛光	マーケットデザイン、ミクロ経済学、ゲーム理論	
	玉田 康成	組織の経済学、契約理論、ミクロ経済学	
	津曲 正俊	経済理論、契約理論	
	河合 啓一	情報の経済学・契約理論・組織の経済学	
	准教授	千賀 達朗	企業行動・マクロ経済学
		松田 一茂	マクロ経済学、労働経済学
計量・統計	教授	河井 啓希	計量経済学、実証産業組織論、医療経済学
	中妻 照雄	計量・統計(ペイズ統計学・計量ファイナンス)	
	星野 崇宏	計量経済学・統計学・行動経済学・マーケティング	
	長倉 大輔	計量経済学・時系列分析、フィナンシャルエコノメトリックス	
	沖本 竜義	計量ファイナンス・マクロ計量経済学、エネルギー経済学	
	岡 達志	計量経済学	
学史・思想史	准教授	秋山 裕	経済発展論・計量経済学・統計学
		片山 翔太	統計科学・高次元データ解析・因果推論
		菅澤 翔之助	統計科学・ペイズ統計学・時空間統計学
経済史	教授	池田 幸弘	経済学史・経済思想史(とくにオーストリア学派、ドイツ語圏における数理的分析の端緒について)
		壽里 竜	社会思想史
		牧野 邦昭	日本経済思想史(近現代)
		佐藤 空	経済思想史・社会思想史、特に18世紀後半のイギリス社会経済思想
専門教育科目	教授	長谷川 淳一	日本とイギリスの戦後史
		飯田 恭	ヨーロッパ社会経済史(専門は近世・近代ドイツ農村・林野史)
		神田 さやこ	アジア経済史・南アジア史
		中西 聰	日本社会経済史
		崔 在東	近代社会経済史・ロシア経済史
		太田 淳	近代東南アジア経済史・インドネシア史
産業・労働	教授	橋口 勝利	日本経済史・日本経営史
		加島 潤	中国近現代経済史・東アジア経済史
		熊倉 和歌子	中東・北アフリカ地域の経済と環境の歴史、特にイスラーム期以降のエジプト史
制度・政策	教授	太田 聰一	労働経済学
		赤林 英夫	教育経済学・家族の経済学・労働経済学
		駒村 康平	社会政策
		山田 篤裕	社会政策論・社会保障論・労働経済学
		中嶋 亮	応用計量経済学・産業組織論・労働経済学
		井深 陽子	医療経済学
現代経済	教授	亀井 恵樹	実験経済学・行動経済学・公共経済学・ビジネス経済学
		三嶋 恒平	工業経済論・中小企業論・国際経営論
国際経済	教授	土居 丈郎	財政学・公共経済学・公共選択論
		藤田 康範	応用経済理論・経済政策
		寺井 公子	公共経済学・政治経済学
		小林 延一郎	マクロ経済学・金融危機・経済成長論
		新井 拓児	数理ファイナンス
		佐藤 祐己	金融論・ファイナンス論
環境関連	教授	白堀 重典	金融論・マクロ経済学・金融政策分析・物価指標論
		植田 浩史	日本経済史・日本経営史・中小企業論
		駒形 哲哉	中国経済論(とくに中小企業)・地域経済論
		田中 幹大	中小企業論・現代日本経済史・経営史
		大平 哲	開発経済学・地域間格差の理論分析
社会関連	教授	嘉治 佐保子	国際マクロ経済学・欧州経済
		桜川 昌哉	国際金融論・国内金融論・マクロ経済学
		大久保 敏弘	国際貿易・空間経済・地域経済
		山田 浩之	開発経済学・応用計量経済学
		一上 韶	国際金融・マクロ経済学・金融政策・ファイナンス
		小橋 文子	国際貿易論・貿易政策
専門教育科目	准教授	白井 義昌	経済理論・国際経済学
		笛原 彰	国際貿易論・国際マクロ経済学
		松本 英彦	国際金融・マクロ経済学